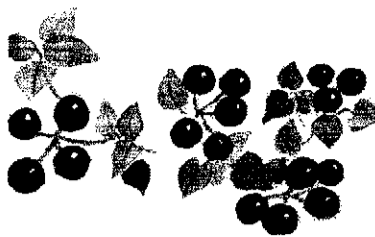


うたた寝



イラスト・平野 恵理子

大正時代の民家を改装した「百年長屋」(大阪市東成区)に7月下旬、浴衣姿の若者ら約50人が集まった。デザイナーの藤田ツキトさん(35)、金輪際セメ子さん(38)夫妻の自営広告会社「シカトキノ」が株式会社になる記念イベントである。

2011年設立のシカトキノは取引の一部に物々交換を取り入れてきた。水産卸のホームページ作成代金の一部に越前ガニ2杯をもらった。設立イベントで全員が浴衣を着たのも、物々交換で浴衣2着と着付け券を手にしたツキトさんが浴衣を着る機会をつくらうと考えたからだ。

「お金のやりとりだけだとそれまでだが、物々交換は交流や経験を広げるきっかけになる」とツキトさん。「市場

物々交換で交流の輪

アカモノ(赤物) ツツシ科の常緑小低木。日当たりのよい高山帯に生える。赤く丸い実が山道を彩る。別名イワハゼ。

価値より私情価値。「コピーライター」のセメ子さんがさっそく言い換えた。実はこの日配ったうちわも物々交換のたまもの。500枚の作成費7万円はツキトさんが支払ったが、うちわに広告を載せる協賛企業を募り物々交換した。工房体験の1泊2日券や地域情報紙の広告枠など、合計14万円の価値になったという。

新会社のモットーは「あらゆるモヤモヤをちようどいいアイデアと一緒に解決する広告会社」。「株式会社にすることで周囲のデザイナーやイラストレーターをつないで活動の場を広げていきたい」。ツキトさんは語る。

会社設立の手続きでモヤモヤしたこともある。例えば契約書の「甲」と「乙」。「鶴」「亀」ではだめなのか。「初年度は会社ってこんなものかと経験する1年」とセメ子さん。夫妻と同年代の知人にも会社設立を考える人がぼつぼつ出てきたという。モヤモヤを解決しながら新しい会社の姿が生まれるかもしれない。

(編集委員 宮内禎一)

ご意見、ご感想をお寄せください。〒100-8065日本経済新聞「こころページ」編集室、電子メールkokoro@nex.nikkei.co.jp